

市民の安心と笑顔のために

No. 238 2021年2月2日 日本共産党札幌市議会 事務局 TEL 211-3221/fax 218-5124

第3次札幌市児童相談体制強化プラン（案） 1/26文教委員会 千葉議員に市担当者 児相の「第三者評価」導入 早期検討し実施へ

「第3次札幌市児童相談体制強化プラン」（案）の質疑で、日本共産党の千葉なおこ議員は、「第三者評価を、現在の一時保護所に優先実施し、新しくできる第2児童相談所に生かすべき」と質問。山本健晴児童相談所担当局長は、「評価を行う期間や体制が課題、まず自己点検を先行させたうえで、一次保護業務も含めまして児童相談所業務の評価ができる限り早期におこなわれるよう、課題の整理を行いまして実施に移してまいりたい」と早期に検討・導入の考えを示しました。

昨年第三者評価の導入については、昨年、太田秀子市議が質問（昨年第1回定例会）して、「6月の検



証結果を踏まえて進めたい」と市が答弁。翌3月の文教委員会で、村上仁市議にたいし、「将来的に導入したい」（児童相談所長）と答弁していましたが、時期は示されてきませんでした。

千葉市議は、第3次プランのなかに、「自己点検の実施」「外部評価による児童相談所業務の質の評価について検討」と指摘されながら、一時保護施設も含む児童相談所の第三者評価は、他都市と比較しても遅れていると一層の促進を求めました。

専門性と継続性を重視 正規採用や経験積める人事配置を

強化プランには、日本共産党が求めてきた、(仮称)第二児童相談所の設置や児童福祉士の増員が盛り込まれました。しかし、児童相談所職員の経験年数は、0～2年未満の職員が49人中32人と、大半を占めているにもかかわらず、専門性や継続性で課題とされてきた非正規職員や市の人事政策については、方向性が示されていません。

2019年6月に起きた痛ましい児童虐待死を二度と繰り返さない… 千葉議員は、虐待事例を検証した「令和元年6月死亡事例に係る検証報告書」が、育成、人事異動の具体策を示すべきと指摘していることを紹介し、具体的な方向性を示すように迫りましたが、山本局長は、「職員を増員してきたことは、人材育成の受け皿」として、(人事)交流を拡大についてのみ言及。人事政策の見直しがない市の姿勢にたいし、千葉議員は、「困難な場面に遭遇しご苦労がある仕事、子どもの命や健康、将来に影響をも与える重要な福祉機関の職員として誇りややりがいをもつことにつながっていく」、「専門性の構築と経験を積むための人事配置」「継続する正規採用を」と重ねて要請しました。

同日は、2022年度から始まる札幌市公立夜間中学についても議題となり、千葉議員は、自主夜間中学として学びの環境を支えてきた札幌遠友塾との連携強化などを求めました。

このニュースを地域民報への転載や各支部への配布など、積極的に活用してください。